

薬局経営者・薬剤師向け オンラインセミナー

参加無料

在宅医療に取り組む前に 備えてほしい 2つのエッセンス

2023年11月7日(火)19:00~20:15

※開始19:00、入室18:45~

「在宅医療に取り組みたいが、局内の体制や業務の見直しが必要で進められない…」
このような課題を抱える薬局のご経営者や管理者の方々が多くおられます。

今回は、在宅医療を継続的に行うための重要な2つのエッセンスについて、株式会社なかいまち薬局（神奈川県、グループ3店舗）を運営され、ご自身も在宅や外来で臨床に取り組んでおられる漆畑 俊哉先生から、取り組みの事例をご紹介します。

在宅医療に取り組みたい・本格的に進めたいとお考えの薬局関係者の方に参加していただきたいセミナーです。



漆畑先生からの
メッセージは裏面へ

演者

株式会社なかいまち薬局
代表取締役社長

漆畑 俊哉 氏

セミナー参加のお申込は、下記より受付しております。

申込URL ▶ <https://www.unike.co.jp/knowledge/event/s20231107-06/>

お申込後は、2~3営業日以内に「infoproduct@unike-service.jp」から受付完了メールを送信いたしますので、「infoproduct@unike-service.jp」からのメールを受信できるように設定をお願いします。

【参加方法】

- * スマホ・PC用アプリケーション「ZOOM」を用いたオンラインセミナーです。ご視聴いただくためには「ZOOM」のインストールが必要です。
- * レセプトコンピュータにて「ZOOM」を用いたオンラインセミナーへは参加できません。別途PC・スマホをご準備ください。
- * 先着順にて受付を行っております。定員になり次第、締切とさせていただきます。ご了承ください。



【お問合せ】

ユニケ・ノアセミナー共同事務局

MAIL : infoproduct@unike.co.jp

〒105-0012 東京都港区芝大門2-5-5 住友芝大門ビル7階

在宅医療に取り組む前に 備えてほしい 2つのエッセンス

— 漆畑 俊哉

私が大学院在学中にドラッグストアでアルバイトをしていた時、とある患者さんが具合悪そうに来店されました。本日どうされたのですか？その時持てる知識をフル稼働させ、これだ！と思う商品をお勧めしたことがありました。後日症状が改善され、改めてご挨拶に来てくださったその方から「あなたに相談してみてもよかった」という一言に、頭のとっぺんから足先まで衝撃を受け、一気に目が覚めたのは2010年頃のことでした。その頃は、大学で基礎研究に没頭して参りましたので、その後に私が薬局経営者になっているとは夢にも思っていませんでした。

他の誰かのために120%の力を発揮したい。

臨床の場で常に意識してきたことは、目の前で困っている患者さんに対して自分が後悔していない選択をできたかというポイントでした。今日行ったアクションが本当にその方にとってベストだったのか、いつも悩んできました。これまでの経験から、一つだけヒントを教えてもらえたことがあります。

「日頃の関係構築があれば、あなたの選んだ答えがわたしのベストなのよ」

2016年のはじめの頃、この一言をきっかけに自ら（一人で）24時間対応も始めました。

しかし、上記のようなエピソードとは裏腹に、業務は非常に過酷となっていきました。どのようにしたら、自分の想いを患者さんに1分でも長く投じることができるのだろう。このような経緯から、経営理念を明確にし、薬局内の業務を整理し始めていきました。整理の方法は例えば、業務的に重要ではあるが自分でなくても差し支えないことを明確にすることから取り組みました。

はじめは粗削りなところもあり、確かめながらブラッシュアップしていくには相当な時間を要しましたが、その後0402通知が発出されたことで、より具体的に取り組んでいくことができました。また、各方面で行われる非薬剤師研修会等を参考に、業務手順書や研修制度構築に積極的に取り組んで参りました。いわゆる非薬剤師の社内呼称は、調剤事務から『薬局パートナー®』と名称変更し、新しい働き方を目指しています。

在宅医療に取り組む前に備えたい2つのエッセンスについて解説させていただくのは、以下のこととなります。

1) 薬剤師のタスクシフトを進める。

過去の経験で感じる最も大切なことは、薬剤師の「時間・気力・体力の創出」です。在宅訪問薬局においては薬局パートナーの存在が極めて重要となります。これからの薬局は、薬剤師は外来処方せん応需を基本としながらも、在宅の現場に出て多職種と連携し、患者さんの服薬管理や服薬アドヒアランス向上（服薬への忠実度）、薬の効果や副作用の確認といった、対人業務を主に行っていく必要があります。

2) 薬剤師の専門性を活かす。

薬剤師の「知識・技能・態度」を高めていくという点になります。今後はセルフメディケーションも含めて、薬剤師が患者をみるシーンが増えるでしょう。しかし、それが「なんとなく具合が悪そうだ」という所感では国民の信頼を得ることはできません。国家資格に紐づいた薬学的専門性を発揮するためにも、医行為ではない範囲で、ある程度の患者さんの状態を見極める必要があります。そこでベースラインとして必要な技能が聴診器を用いて状態を把握できる力だと考えられます。リフィル処方箋にしても、OTCにしても、なぜこの処方で良かったか、客観的に理解しうる共通言語を扱っていくとよいでしょう。

漆畑 俊哉 (うるしばた しゅんすけ)
株式会社なかいまち薬局 代表取締役社長

薬剤師、博士（薬学）
2006年 東京薬科大学 薬学部 卒業
2011年 東京薬科大学大学院 薬学研究科 修了
2013年 株式会社なかいまち薬局 設立 現在に至る

